

2016年6月10日
共和化工株式会社

汚染牧草の減容化処理実験を開始

～微生物を活用した牧草の安定化と植物への影響を検証～

共和化工株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役:吉村俊治)は、東京電力福島第一原発事故で放射性物質に汚染され、数年間保管されている牧草に対し、微生物を活用した減容化処理の実証実験を平成28年5月23日より宮城県栗原市にて開始いたしました。

■実験着手の背景

栗原市では、放射性物質濃度が1キログラムあたり8,000ベクレル以下の市町村が一般ごみとして処理をすることが定められている汚染牧草およそ2,600トンが畜産農家に保管されており、その処理方法と再生利用の安全性を併せて検証するため、微生物を活用した減容化処理方法を検討することとなりました。

■実験内容

実験では、当社の持つ超高温好気性発酵処理技術を用いて、約45～50日間かけて牧草を減容化処理し、その減容率や放射性物質濃度の変化を検証すると共に、処理産物の安全性を植物栽培実験で検証します。

■今後の展開

汚染牧草はおよそ10分の1までの減容化を見込んでおり、安全性が確認できれば、栗原市内に保管されている約2,600トンの減容化処理が可能となります。本実験は自治体による農業系廃棄物の減容化という全国的に例を見ない実験であり、同様の農業系廃棄物の処理方法を模索している自治体にも展開が可能になります。

また、処理産物を用いた植物栽培実験により安全性が確認できれば、再利用に向けた具体的な処理方法として適用が可能です。

■会社概要

商号 : 共和化工株式会社
代表者 : 代表取締役社長 吉村 俊治
所在地 : 〒141-8519 東京都品川区西五反田 7-25-19
設立 : 昭和34年1月
URL : <http://www.kyowa-kako.co.jp/index.php>

目的

- 8,000Bq/kg以下の牧草がラッピングされ、農家がそのまま所有している。
- 再ラッピングを実施しているが、劣化し鳥獣被害により破損が著しく進行している。
- 栗原市内で約2,600tが保管されている。



- 今後の本格処理に向け、減容化の実証実験を実施。
 - ① 発酵処理により減容化・安定化した状態にできる事を検証する。
 - ② 放射性物質濃度の数値変化を検証する。



処理産物を用いた植物栽培試験を実施する。



実験施設外観



実験施設内部



汚染牧草(左)と微生物資材(右)



発酵処理中

■ 本件に関するお問合せ先

共和化工株式会社 バイオ事業推進部

担当 : 松澤

TEL : 03-3494-1314

以上